

- 1、いつ見ても戦争の写真は気持ち悪いなと感じます。戦争下の状況でいかに生き延びるかを当時の人は必死だったのだろうなと思いました。今回の展示にあった小学生が兵隊さんに書いた手紙を見て、戦争に対するすごく切実な願いが書かれていて悲しくなりました。私たちも戦争の真実をちゃんと受け止めなければいけないし、もっと知ろうと思いました。



- 2、慰問文を見て、あんなに小さい子が人が死んでしまうような戦いで勝つことを祈っているというのがすごく残酷だと思いました。改めて戦争の無い、この時代に生まれて良かったなと感じさせられました。
- 3、戦争にかんするものを見るといつも気分が悪くなってしまいます。慰問文を見て、当時の日本人は小さい頃からこういう教育をされてきたんだなと思いました。戦争中の教育はすごいですね。知らない人に手紙を出すための文例集の存在にも驚きました。
- 4、戦争というのは自分の中では「過去のこと」になりがちだけど、今でも戦争はなくなっていないということを感じました。さらに現在日本には憲法 9 条を改正しようとしている人達もいます。平和をうたった憲法 9 条がなくなると、これから若い人達は戦争が起きたら戦争に行かなければならないかもしれません。そんな未来が来ることはとても恐ろしいことだと思います。
- 5、今回図書館で行われていた戦争に関する展示を見て、「戦争によって多くの方が悲しみ苦しんだのだ」ということを改めて感じました。またその戦争の名残が世界中の至る所に残っていて、何十年も前の話に苦しめられている人がいることも知りました。このようなことが起こっているのは戦争に関わったすべての国の責任だから、世界中で協力して解決して欲しいと思います。
- 6、子どもから兵隊さんに向けて書いた手紙はその時の戦争の風景が伝わってくるような感じがしました。僕は映画やテレビでよく戦争物を見ます。修学旅行で沖縄にも行って改めて戦争のむごさを知りました。



- 7、戦争は多くの悲しみを生んでしまう。多くの死、犠牲を生む。子どもや女性、お年寄りなど無力な人達も傷つけてしまうのだ。そして戦争が残した様々な爪痕は、平和とは何かをいつも訴えかけてくると思う。今、僕たちにできることは、今回展示されていたような戦争の遺物を見て、過去の出来事と向き合うことだと思う。そして二度と戦争が繰り返されないように犠牲となった人々のためにも、平和を維持して一生懸命に生きて生きたい。